

令和6年度 外国語 授業改善推進プラン

大田区立おなづか小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・友達との英語を使ったコミュニケーションを通して、会話文を使いながら表現できるようになってきた。
- ・自分が生活で使ってみたい表現について考えさせることで、英語の有用性を実感している児童が増えてきた。

(2) 課題

- ・アルファベットの活字体の大文字、小文字が定着していない児童が課題である。
- ・学習した英単語であっても、ネイティブの発音だと聞き取れずに、コミュニケーションを諦めてしまうことがある。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和6年度結果	令和5年度結果	令和4年度結果
第6学年	前年度の校内平均正答率に比べると、基礎は4ポイント下回り、活用は15ポイントと大きく下回っている。基礎は目標値を上回っているが、活用は目標値も5ポイント下回っている。	全体的に目標値を上回っている、または同程度である。「アルファベットの書き（聞く）」と「英文の完成」の設問で下回っているものが二つあり、課題がある。	

(2) 分析（観点別）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
校内平均正答率は目標値を上回っている、または同程度である問題が多い。しかし、アルファベットを聞いて書く問題については、目標値を下回っている。聞き取れても正しく書けなかったり、四線上の書く位置を間違えたりする児童が多い。	校内平均正答率は目標値を上回っている、または、同程度である問題が多い。しかし、英単語の知識が定着していなかったり、問題文の状況を読み取れなかったりすることから、英語で文章を正しく書くことができない児童が多い。	校内平均正答率は目標値を約2ポイント下回っている。無回答の児童や問題文の意図と異なる回答をしている児童が多い。

3 授業改善のポイント（観点別）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・アルファベットの活字体の大文字、小文字を正しく書くことが定着していないことが課題である。第3学年のローマ字指導、第5学年のアルファベット指導を繰り返し行ったり、英単語を書きとったりするような活動を繰り返し取り入れることで、定着を目指すことが必要である。 ・聞いた英文について、その内容を 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習した英単語を使って、自分のことや友達のことについて発表させたり、図やイラストをもとに、その状況を英語で説明したりするような学習を取り入れる。 ・学習した英文を用 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習したことについて振り返りを行う際に、自分の生活で使える表現、使いたい表現について考えさせるなど、視点を与えることで、英語の有用性を感じられるようにし、主体的に学習に取り組む態度を育成する。 ・休み時間にはALTと英語で

<p>日本語で伝える学習を取り入れ、学習した英単語を聞き取れるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none">第3学年の外国語活動から英語に親しむ機会を取り入れることで、英語を聞き取る力を身に付けさせる。	<p>いて、友達と会話する場を設定することにより、会話を理解しながら、表現できる力を育成する。</p> <ul style="list-style-type: none">翻訳アプリを使用せずに、英語の教科書や補助資料を活用して英作文をする活動を取り入れる。	<p>コミュニケーションを図る英語カフェを行い、全学年が外国語に主体的に取り組むことができるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none">友達やALTと積極的にコミュニケーションを取らせたり、分からないときも諦めずに知っている単語で会話させたりするような指導を第3学年から継続して行う。
---	---	---